

春・夏休み短縮土曜に補習 ゆとり教育見直し

政府の教育再生会議第1分科会(学校再生)の白石真澄主査らは14日の会合で、「ゆとり教育」の見直しに向け、「幅広く各学校の創意工夫を認める」としたうえで、〈1〉夏休みや春休みの1週間程度の短縮や2学期制を検討する〈2〉土曜日の補充学習を行う——ことなどを例示した素案を提示し、了承された。素案は、再生会議の第1次報告に盛り込まれた授業時間数を10%増やす方策などを検討するたたき台となるものだ。

また、主要5教科の授業時間確保が必要とし、それ以外の教科の授業時間は各学校で選択できるようにする案も提示した。

学習指導要領の見直しについては「授業を実施していく上での最低基準とし、創意工夫を生かして教育課程を組めるようにできるだけ弾力化する」などとした。

分科会は素案をもとに議論を集約し、5月にまとめる第2次報告に反映させたい考えだ。

ゆとり教育 小・中・高校での詰め込み教育への反省から、文部省(現文部科学省)が1970年代後半から進めてきた政策。授業時間の削減や学習内容の平易化を段階的に実施した。国際調査などで日本の子どもの学力低下傾向が顕著になると、その原因を作ったと批判されている。

(2007年3月15日 読売新聞)